第３１回サマーコンサート in 志木に出演する

第３１回サマーコンサート in 志木が、２０１８年７月８日(日)、志木市民会館パルシティで開催された。

志木グリークラブは、初谷敬史先生の指揮で黒人霊歌“The Battle of Jericho” “Steal Away” “Ride the Chariot”の３曲を演奏した。

当日は、午前９時、控室(パルシティ２階２０２号室)に集合し、体操・声出しをしてから、９時３０分から３０分間ステージリハーサルを行った。我がグリークラブの団員は、まともに歌えるまでにかなりのアイドリング時間が必要で、この日もなかなか調子が出ない。(歳のせいとは言わないが、今まで練習してきたことを思い出すのにかなり時間が掛かる＜笑＞)

ステージリハーサル時の初谷先生の顔は呆れ顔で、とても本番前の声ではないと今まで練習してきたのは何であったのかと呆れてものが言えない表情であった。そこで、練習場所を控室に移して、昼食、本番までの１時間３０分を使って直前の特訓が始まった。

１曲目に演奏する“The Battle of Jericho”を歌うにあたっての初谷先生の指導内容は以下のとおり。全体を通して跳ねないで滑らかに歌うこと。強弱とリズムを大切に。出だしの「Joshua fit the battle of Jericho」の Joshua はハッキリと出ること。歌詞の中でも特に「Gideon、Saul、Josh」の固有名詞をハッキリ歌うこと。裏打ちのリズムをシッカリ出すこと。そして、mp から mf、sp から mf、mf から dim して p へ、曲の中盤は、pp から p、f、ff へとだんだん大きくなり、最後は、pp から mf しかも力まない f で終わること。この曲想が、初谷先生流の“The Battle of Jericho”の真骨頂である。

本番での“The Battle of Jericho”の出来映えは、一夜漬けならぬ即席漬けの練習効果があって、出だしの Joshua はシッカリ出ることができたが、中盤の歌詞がハッキリせず、モグモグした発音でモタモタした演奏のところがあった。ただ、全体的には、裏打ちのリズムも出て比較的軽いノリで歌うことができたと思う。出来ることならば、頬骨を上げて微笑みの顔で歌えればよかった。(言うは易く行うは難し。何度ステージにのってもつい気合が入って、練習で指摘されたことを忘れてしまう。永遠の課題＜笑＞)

ここで、“The Battle of Jericho”(ジェリコの戦い)の歴史的背景についてみてみよう。

“The Battle of Jericho”は、ジョシュア（ヨシュア）のジェリコ攻略を歌った有名な黒人霊歌・スピリチュアル。 合唱曲としても歌われるほか、ジャズのスタンダードナンバーとしても定着している。

ジェリコ（エリコ、イェリコ）とは、イスラエルやヨルダンに近い古代オリエントの古い町の名前。死海（Dead Sea）に注ぐヨルダン川河口から北西約 15km、現在はヨルダン川西岸地区に含まれる場所にある。

神の意志の下、ヘブライ人（ユダヤの民）をエジプトから脱出させたモーセ（モーゼ）は、約束の地カナンへ向けて、何人かの偵察を送った。その中の一人に、黒人霊歌『ジェリコの戦い』の主人公であるジョシュア（ヨシュア）がいた。偵察に行った者たちは、カナン攻略は無理だと口々に不平を吐き猛反対。中にはエジプトへ戻るべきとまで言い出す有様だったが、ジョシュア（ヨシュア）はこう言った。「我々が偵察して来た土地は、とてもすばらしい土地だった。もし、我々が主の御心に適うなら、主は我々をあの土地に導き入れ、あの乳と蜜の流れる土地を与えてくださるであろう。ただ、主に背いてはならない。あなたたちは、そこの住民を恐れてはならない。彼らは我々

の餌食にすぎない。彼らを守るものは離れ去り、主が我々と共におられる。彼らを恐れてはならない。」モーセから約束の地に入ることを許されたジョシュア（ヨシュア）は、モーセの死後その意志を受け継ぎ、神の民を率いる指導者としてヨルダン川を目指した。ヨルダン川の激流に行く手を阻まれた一行だったが、モーセ（モーゼ）の十戒が刻まれた石板を収めた「契約の箱 *Ark of the Covenant*」により、神の奇跡が起きてヨルダン川は瞬く間に干上がった。神の奇跡で無事川を渡りきったジョシュア一行。ジェリコの街へ進軍するが、街は固い城壁で囲まれ、城門も固く閉ざされてジョシュア達の入場を拒んだ（いわゆる「ジェリコの壁（エリコの壁）」）。ここで神がジョシュアに告げた。「6 日間ジェリコの街を一周せよ。7 人の司祭は雄羊の角笛を携え契約の箱を先導せよ。」さらに神は続けた。「７日目には街を７周し、司祭らは角笛を吹き鳴らすのだ。そして皆で時の声をあげよ。さすれば城壁は崩れ落ちるだろう。」
神のお告げに従い、角笛の先導で契約の箱と共にジェリコの街を 6 日間周回したジョシュア軍は、7 日目に見事城壁を打ち崩し、ジェリコ攻略を果たしたのであった。　　（*Wikipedia* より）

歌詞	訳
Joshua fit the Battle of Jericho	ジョシュアはジェリコの戦いに挑んだ
Jericho Jericho	ジェリコ　ジェリコ
Joshua fit the Battle of Jericho	ジョシュアはジェリコの戦いに挑んだ
And the walls come tumbling down	砦の壁は崩れ落ちた
You may talk about your kings of Gideon	ギデオンもサウルもかなわない
You may talk about your men of Saul	
But theres none like good old Joshua	古き英雄ジョシュア
At the battle of Jericho	ジェリコの戦に挑んだ
Right up to the walls of Jericho	ジェリコの砦に向かい
He marchd with spearin hand in hand	槍を手に進軍したジョシュア
Go blow that ram horn Joshua cried	さあ　羊の角を吹き鳴らせ
Cause the battle am in my hand	戦は我が手中にあり
Then the lamb ram sheep horns begin to blow	雄羊の角笛が吹き鳴らされ
And the trumpet begin to sound	トランペットが響きだすと
Joshua commanded the children to shout	ジョシュアは命じた「叫べ！」
And the walls come tumbling down	ジェリコの壁は崩れ落ちた
That morning	

２曲目の“Steal Away”は、奴隷達が hush harbor※でミーティングが行われることをお互いに知らせるために使った曲として有名である。（※現在のブラックゴスペルのルーツである Spirituals ＜黒人霊歌＞が生れた場所）　この曲を歌う時の初谷先生の指導内容は、以下のとおり。
Steal Away は、奴隷達の合図の叫びであるので、出だしで Top Tenor が歌う“Steal away”は、こっそりとこっそりとの感じが出るように聴こえない位の囁くような音量で歌うように。」
（トップテナーが、この消え入るように囁くように歌うのが、チョット難しかったようだ＜笑＞

「Steal away to Jesus」の to Jesus は自由を示している。「ジーーザーーース」と p で延ばすように。「I aint got long to stay here」は、誰かがもうすぐ自由の旅に出ることを歌っているので、pp で一息に少しクレッセンドして dim で収める。
「My Lord He calls me. He calls me by the thunder」は、次の雨嵐を上手く利用して逃走することを知らせているので、Piu mosso で倍のテンポで歌うこと。My Lord と He calls me の間は、切る。「The trumpet sounds with in my soul」は、自由への渇望を訴えるように「The trumpet sounds」は、p で歌いブレスして「with in my soul」は、f、クレッセンドする。「I aint got long to stay here」は pp で、テンポプリオ（Tempo Ⅰ）歌うこと。
「Green trees are bending」は、春を告げるものであるが、集合場所は外から気付かれない木々の中である。「Poor sinners stand a trembling」は、奴隷達の主人を指していて、奴隷達は何があってもあらゆる手段を使って去ってゆくことを歌っているので、Piu mosso で倍のテンポで歌うこと。
　これらの指導内容を念頭において、何度となく練習したが、いざステージにのると上手く歌おう自分が頑張らなくてはと気合が入って、他のパートの声が耳に入らないことがあり、「シマッタ！」と思うところが何ヶ所かあった。初谷先生の指導内容を最初の譜読みの時にメモをとり、楽譜に記入しているにも拘わらず、そのメモを見落として先生に「私は、最初から同じことを言っている。メモを書いているだけではダメよ！メモ通りに歌って下さい！」と度々言われた。

歌詞	訳
Steal away steal away	こっそりと　こっそりと
Steal away to Jesus	こっそりと　イエス様の元へ　逃げてゆこう
Steal away steal away home	こっそりと　こっそりと　故郷へ逃げてゆこう
I aint got long to stay here	もう　ここには　居なくてもよい
My Lord He calls me	我が主なる神様が呼んでいる
He calls me by the thunder	神様が　雷で呼んでいる
The trumpet sounds with in my soul	トランペットが　私の魂の内から鳴り響く
I aint got long to stay here	もう　ここには　居なくてもよい
Steal away steal away	こっそりと　こっそりと
Steal away to Jesus	こっそりと　イエス様の元へ　逃げてゆこう
Steal away steal away home	こっそりと　こっそりと　故郷へ逃げてゆこう
I aint got long to stay here	もう　ここには　居なくてもよい
Green trees are bending	青い木が撓んでいる
Poor sinners stand a trembling	哀れな罪人が　震えながら　立っている
The trumpet sounds with in my soul	トランペットが　私の魂の内から鳴り響く
I aint got long to stay here	もう　ここには　居なくてもよい
Steal away steal away	こっそりと　こっそりと
Steal away to Jesus	こっそりと　イエス様の元へ　逃げてゆこう
Steal away steal away home	こっそりと　こっそりと　故郷へ逃げてゆこう
I aint got long to stay here	もう　ここには　居なくてもよい

３曲目の“Ride the Chariot”は、４月 15 日に開催された第８回コーラスフェスティバル in 和光でも演奏したので、ある程度は、歌い込んでいる曲である。
ただ、今まで歌ってきた曲とは、少し趣が違う曲で、歌い熟すまでにかなり時間が掛かった。
今回が２回目のステージ演奏なので、他の２曲と比べると多少余裕があった。
　この曲の楽譜を見た時　テンポは速く　テナーソロと合唱の兼ね合いがあり同じ歌詞を何度も繰り返すなど　暗譜するのが大変と感じた。そこで、テナーソロを止めて合唱を２グループに別けて歌うことになった。（ソロパートを歌う時は、一歩前に出て歌うことになった）
苦労したのは、Im gona ride. Ride the chariot in the morning Lord
Im gona ride. Ride the chariot in the morning Lord
Im getting ready. Im getting ready for the Judgment day
My Lord My Lord
を４回繰り返すのであるが、歌っている内に何回繰り返したのか分からなくなったことである。
また、初谷先生から歌い方として、全体を滑らかに跳ねないで歌うこと。言葉を繋げて歌うこと。ブッキラボウに歌うこと。訛りのある発音すること等々の指導があり、なかなかマスターするのが大変であった。いずれにしても、我々の歳になると覚えるより忘れる方が何倍も速いので、夢に出てくるほど練習をするほかに特効薬はないことを痛感した次第である。

歌詞

Im gona ride. Ride the chariot in the morning Lord
Im gona ride. Ride the chariot in the morning Lord
Im getting ready. Im getting ready for the Judgment day
My Lord My Lord （繰り返し）

Are you ready my brother？ Oh yes
Are you ready for the journey？ Oh yes
Do you want to see your Jesus？ Oh yes
Im waiting for the chariot cause Im ready to go

Im gona ride. Ride the chariot in the morning Lord
Im gona ride. Ride the chariot in the morning Lord
Im getting ready. Im getting ready for the Judgment day
My Lord My Lord （繰り返し）

Are you ready my sister？ Oh yes
Are you ready for the journey？ Oh yes
Do you want to see your Jesus？ Oh yes
Im waiting for the chariot cause Im ready to go

I never can forget that day
Ride in the chariot to see my Lord
When all my sins were taken away

Ride in the chariot to see my Lord
My feet were snatched from the miry clay
Ride in the chariot to see my Lord
I ‘ll serve my Lord till judgment day
Ride in the chariot to see my Lord

Im gona ride. Ride the chariot in the morning Lord
Im gona ride. Ride the chariot in the morning Lord
Im getting ready. Im getting ready for the Judgment day
My Lord My Lord

訳

「行くぜ！」
朝になったら戦車に乗ろう　主に会うため
朝になったら戦車に乗ろう　主に会うため
審判の日への支度はもうすぐできます　我が主よ　我が主よ　（繰り返し）

「用意はいいかい　なあ兄弟？」　「おう　いえーす」
「旅の支度はできたかい？」　「おう　いえーす」
「イエス様に会いたいかー？」
「おう　いえーす。支度が出来て戦車を待っているんですよ」

「行くぜ！」
朝になったら戦車に乗ろう　主に会うため
朝になったら戦車に乗ろう　主に会うため
審判の日への支度はもうすぐできます　我が主よ　我が主よ　（繰り返し）

「用意はいいかい　お嬢さん方も？」　「おう　いえーす」
「旅の支度はできたかい？」　「おう　いえーす」
「イエス様に会いたいかー？」
「おう　いえーす。支度が出来て戦車を待っているんですのよ」

私は決してあの日を忘れない
戦車に乗ろう　主に会うため
私の罪が全て悔い改められた日・・・
戦車に乗ろう　主に会うため
私の足は　あの泥だらけの嫌な所からもオサラバ
戦車に乗ろう　主に会うため
私はきっと　審判の日を告げる主にお仕えします
戦車に乗ろう　主に会うため

「行くぜ！」
朝になったら戦車に乗ろう　主に会うため
朝になったら戦車に乗ろう　主に会うため
審判の日への支度はもうすぐできます　我が主よ　我が主よ

（訳は Wikipedia より）

ここで、男声合唱曲のレパートリーに黒人霊歌が多いが、今回我々が歌った黒人霊歌に関する記事が、インターネットに載っていたので引用させていただく。

黒人霊歌の成り立ち－

16 世紀、植民地アメリカを開拓する労働力補給のため、多くの黒人たちがアフリカ各地から奴隷としてアメリカに連れてこられた。奴隷たちの生活は、救いのない、惨めなものであった。彼らの主人である白人たちは正当化のため、宗教を利用した。死後の世界の‘完全に精神的な幸福’を教えたのである。そして黒人たちは、その教えに感銘を受ける。聖書には、迫害されているユダヤ人が神の恵みによって救われる話が多くあり、彼らはその話を自分たちの境遇に重ねたのだ。英語を読めない奴隷たちは、牧師の説教からのみ、つまり‘音’として、聖書を学んだ。先天的に音楽感覚の鋭い黒人たちは、その反応をまた‘音’として再生した。それが黒人霊歌（*Negro spiritual*）である。黒人奴隷たちの精神的（スピリチュアル）な世界への憧れがニグロ・スピリチュアルになったのである。

－黒人霊歌の特徴－

黒人霊歌の特徴としてまずあげられるのは、その黒人なまりである。次ページの歌詞を参考にして例をあげると、*th* や *v* の音が発音できない（*the*→*de*）、促音が加わる（*heaven*→*hebben*）、単語の一部が省略して発音される（*moming*－*momin'*）などである。また、歌詞の文法はかなりいいかげんである。これらの原因は、黒人が正式な教育を受けていないために、正確な発音や文法を知らなかったため、また、即興で歌うことを好んだ黒人たちの、リズム感にまかせて歌いあげたためである。
黒人霊歌の根底に流れるものは、自由への憧憬である。黒人霊歌には、「天国」を意味する単語が多く出てくるが、彼らにとって天国への道とは、「自由と救い」を意味する。例えば、『*steal Away*』中、‘*steal away to Jesus*’という歌詞を、‘*steal away to freedom*’の意にとって歌ったわけだ。また、『*Joshua fit de Battle ob Jericho*』には特に天国を意味する単語は出てこないが、この歌は「黒人の自由を求める戦い」という意をこめて歌われた。
『*somebody's knocking*』で歌われている *sinner*（罪人）とは、誰のことを指していたのだろうか？
黒人霊歌は、そういった意をこめられているにもかかわらず、黒人奴隷の主人である白人の前でも歌われた。白人たちには、聖書を元にした歌を歌っているように見せかけて、その実、*double meaning* として、自由への逃亡の意をこめて歌ったのである。

－合唱曲としての黒人霊歌－

黒人霊歌を広く知らしめる土台を築いたのは、*Fink Jubilee Singers* であった。実際、黒人霊歌を、最初に、コンサートの形で、人々に聴かせたのが、*Tennessee* 州 *Nashville* の *Fink* 大学で *1871* 年に結成されたこの合唱団だった。*Nashville* といえば、今や、白人の音楽カントリー＆ウェスタンの都であるが、同時に、黒人教育の最高機関として開校したのが *Fink* 大学。その経営資金を集める一手段として、生徒の有志がこの合唱団を結成、全米各地はもとより、ヨーロッパにまで、スピリチェアルの演奏をおこなった。 *'Nobody Knows the Trouble I've Seen'* （誰も知らない私の悩み）や、 *'Deep River'* などの名歌は、*Fink Jubilee Singers* の十八番ナンバーであった。ジュービリーという名は、当時、ニグロ・スピリチェアルをそう呼んだことによる。

誇り高きエリート大学生の合唱団だから、*Fink Jubilee Singers* の演奏は、よく言えば格調高いものであり、悪く言えば、形式的なきれいごとにおちいっていた。特に日本で、ニグロ・スピリチェアルというと、いわゆる *glee*（合唱曲）スタイルのコンサータイズされた形で歌われる、スロー・テンポの美しい曲という印象が強いようだが、そういう誤った概念を生んだ張本人もまた、*Fink Jubilee Singers* であり、彼らの直接間接の影響で、ニグロ・スピリチュアルを好んでレパートリーに取り入れたクラシックの歌手たちであった。

黒人霊歌は本来、黒い血と汗と涙がにじんだ、アーシーで、ヴァイタルなものである。即興で歌うことを好まれ、アフリカ原始音楽のリズミカルな性質が流れる歌だ。黒人霊歌のそのようなキャラクターは、いつのまにか兄弟音楽である *gospel music* の専売特許のようになってしまった。

（*Wikipedia*　慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団　第 *125* 回演奏会プログラムより）

今回の第３１回サマーコンサート in 志木の参加数は、１３団体であった。(別添プログラム参照)志木グリークラブは、1部の１番目に演奏した。我が団の生みの親である志木第九の会の会員の方々をはじめ多くの聴衆の前で歌う時は、年齢のことは忘れ、青年の頃に帰った気持ちで緊張感を持ってステージに上がった。初谷先生の熱の入った指導により、今頃になって、男声合唱の“コツ”が分かってきたようだ。他のパートの声をよく聴き、７分の声量で歌う。何度も何度も繰り返し、自主練習を行うこと。

これらの指導内容を肝に銘じて、１０月６日に開催される彩の国男声コーラスフェスティバル２０１８に向けて練習を始めたところである。

＜追記＞

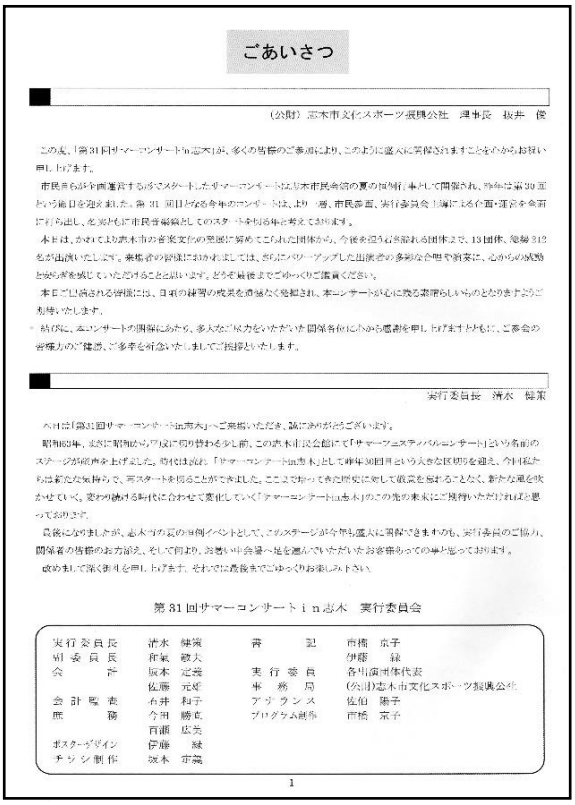
サマーコンサート当日の気温は、関東地方が６月中に梅雨明けしたことで、３２度を超える暑さであった。同じ頃、岡山県、広島県、愛媛県など西日本地方は、記録的な大雨や河川の氾濫で、多くの死者と被害が出た。（西日本豪雨）私の故郷岡山県では、倉敷市真備町を中心に多くの死者と大きな水害が発生した。知人の中にも被害に遭った方々がおられる。心よりお見舞いを申し上げます。

（２nd-Tenor　和氣　敏夫記）

プログラム

表紙

裏表紙



ごあいさつ

(公財) 志木市文化スポーツ振興公社 理事長 板井 俊

この夏、「第31回サマーコンサートin志木」が、多くの皆様のご参加により、このように盛大に開催されますことをのからお祝い申し上げます。

市民自らが企画運営する形でスタートしたサマーコンサートは志木市民会館の夏の恒例行事として開催され、昨年は第30回という節目を迎えました。第31回目となる今年のコンサートは、より一層、市民参画、実行委員会上海による企画・運営を会員に行う出し、名実ともに市民音楽祭としてのスタートを切る年と考えております。

本日は、かねてより志木市の音楽文化の発展に努めてこられた団体から、今後を担う若き新たな団体まで、13団体、総勢212名が出演いたします。来場者の皆様におかれましては、さらにパワーアップした出演者の多彩な合唱や演奏に、心からの感動と安らぎを感じていただけることと思います。どうぞ最後までごゆっくりご鑑賞ください。

本日ご出演される皆様には、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮され、本コンサートが心に残る素晴らしいものとなりますようご期待いたします。

結びに、本コンサートの開催にあたり、多大なご尽力をいただいた関係各位に心から感謝を申し上げますとともに、ご参会の皆様方のご健康、ご多幸を祈念いたしましてご挨拶といたします。

実行委員長 清水 健策

本日は「第31回サマーコンサートin志木」へご来場いただき、誠にありがとうございます。

昭和63年、まさに昭和から平成に切り替わる少し前、この志木市民会館にて「サマーフェスティバルコンサート」という名前のステージが産声を上げました。時代は流れ「サマーコンサートin志木」として昨年30回目という大きな区切りを迎え、今日私たちは新たな気持ちで、再スタートを切ることができました。ここまで培ってきた歴史に対して敬意を忘れることなく、新たな風を吹かせていく。変わり続ける時代に合わせて変化していく「サマーコンサートin志木」のこの先の未来にご期待いただければと思っております。

最後になりましたが、志木市の夏の恒例イベントとして、このステージが今年も盛大に開催できますのも、実行委員のご協力、関係者の皆様のお力添え、そして何より、お暑い中会場へ足を運んでいただいたお客様あっての事と思っております。

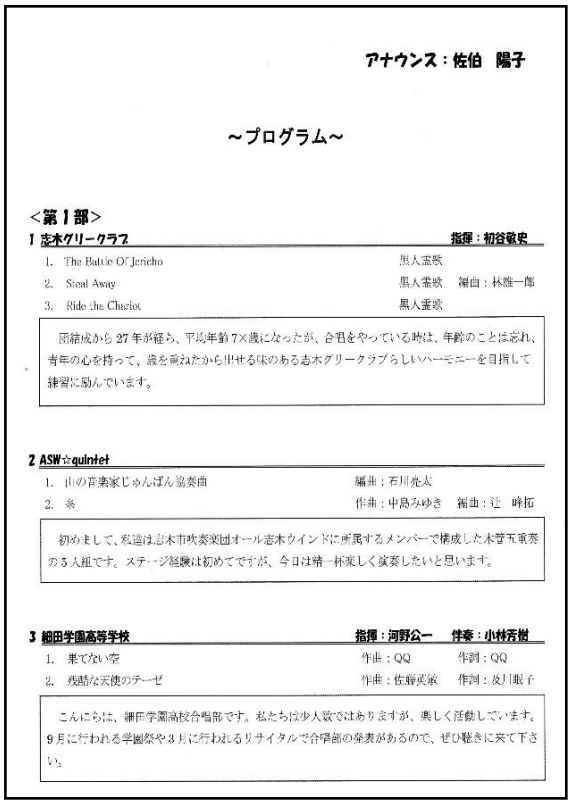
改めまして深く御礼を申し上げます。それでは最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

第31回サマーコンサートｉｎ志木 実行委員会

実行委員長	清水 健策	書記	市橋 京子
副委員長	和氣 敏夫		伊藤 緑
会計	坂本 定義	実行委員	各出演団体代表
	佐藤 元雄	事務局	(公財)志木市文化スポーツ振興公社
会計監査	石井 和子	アナウンス	佐伯 陽子
庶務	今田 勝直	プログラム制作	市橋 京子
	百瀬 広美		
ポスターデザイン	伊藤 緑		
チラシ制作	坂本 定義		

1

P－1



アナウンス：佐伯 陽子

～プログラム～

＜第１部＞

1 志木グリークラブ 指揮：初谷敬史

1. The Battle Of Jericho 黒人霊歌
2. Steal Away 黒人霊歌 編曲：林雄一郎
3. Ride the Chariot 黒人霊歌

団結成から27年が経ち、平均年齢7×歳になったが、合唱をやっている時は、年齢のことは忘れ、青年の心を持って、歳を重ねたから出せる味のある志木グリークラブらしいハーモニーを目指して練習に励んでいます。

2 ASW☆quintet

1. 山の音楽家じゅんぱん協奏曲 編曲：石川亮太
2. 糸 作曲：中島みゆき 編曲：辻 峰拓

初めまして、私達は志木市吹奏楽団オール志木ウインドに所属するメンバーで構成した木管五重奏の５人組です。ステージ経験は初めてですが、今日は精一杯楽しく演奏したいと思います。

3 細田学園高等学校 指揮：河野公一 伴奏：小林芳樹

1. 果てない空 作曲：QQ 作詞：QQ
2. 残酷な天使のテーゼ 作曲：佐藤英敏 作詞：及川眠子

こんにちは、細田学園高校合唱部です。私たちは少人数ではありますが、楽しく活動しています。9月に行われる学園祭や3月に行われるリサイタルで合唱部の発表があるので、ぜひ聴きに来て下さい。

P－2

4 八国山低音プラスアンサンブル

1. ～青山の丘を越えるシリーズ～
   青い山脈・丘を越えて　作曲：服部良一　作詞：古賀政男　編曲：nama
2. NHK大河ドラマ「西郷どん」メインテーマ　作曲：富貴晴美　編曲：山岸和正
3. ラ～メン・ヌードルズ　作曲：八木澤教司

ユーフォニアム・チューバアンサンブルユニット、八国山低音プラスアンサンブルです。サマーコンサートは二度目の出演になります。金管低音楽器の温かい音色をお楽しみください。

5 志木第九の会　**指揮：初鹿野剛**　**伴奏：矢内直子**

混声合唱組曲「水のいのち」より　作曲：高田三郎　作詞：高野喜久雄
　海
　海よ

志木第九の会は平成4年創立以来27年、地元志木で演奏活動を行っている混声合唱団です。去る6月10日第19回定期演奏会をここパルシティで、合唱組曲・水のいのちを始め、モーツァルトのオペラ曲などを演奏しました。

6 オカリーナ四季　**指揮：杉山雅彦**

1. オリンピックファンファーレ　作曲：今井光也
2. 虹と雪のバラード　作曲：村井邦彦　作詞：河邨文一郎
3. ピクニック　イギリス民謡
4. お祭りマンボ　作曲：原　六郎　作詞：原　六郎
5. スタンド・アローン　作曲：久石 譲　作詞：小山薫堂

設立23年になりました。毎年サマーコンサートを最大の目標として、出来る限り続けたいと楽しみにしています。杉山雅彦先生という良き指導者に恵まれております。皆さん私達と一緒にオカリナを始めませんか？

7 アンサンブル WINT　**代表：清水健策**

たなばた　作曲：酒井　格

今年も無事出演に漕ぎ着けることができ皆でホッとしています。昨年は「原点回帰」の目標を掲げ今年も引き続きの挑戦です。お聞き苦しい所もあるかと思いますが、ちょっとしたギミックもありますのでお楽しみに!!

P－3

＜ 休　　憩 ＞

＜第2部＞

8 琴の会　**代表：市橋京子**

1. 飛躍　作曲：久本玄智
2. 編曲長唄 越後獅子　作曲：野村正峰

第12回からの参加です。小学生から92歳までが参加させて頂きました。昨年のサマーコンサート30周年に続き、今年は琴の会参加20周年を記念して、やはりお祝儀曲の獅子物と、更なる"飛躍"を願い演奏します。

9 ドン・キホーテ男声合唱団　**指揮：河田修朗**

1. Ständchen（小夜曲）　作曲：マルシュネル　作詞：ヴェルフ
2. ふるさと　作曲：オナーティン　作詞：不詳
3. Gaudeamus（学生歌）　ドイツ民謡　作詞：岡本敏明
4. 夜のうた　作曲：佐々木伸尚　作詞：阪田寛夫

26回目の参加となります。今回もよろしくお願いいたします。さまざまな曲に取り組んで、およそ四半世紀。先月は、この会場で第11回目の演奏会を開催することが出来ました。
年中団員募集中です。

10 CANTIAMO!　**伴奏：山中　優**

1. オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」より"私は黒髪にするわ"　作曲：W.A.モーツァルト
2. オペラ「アタランタ」より"親愛なる森よ"　作曲：G.Fヘンデル
3. ミュージカル「マイ・フェア・レディ」より"踊り明かそう"　作曲：F.ロウ

ソプラノ歌手の平井裕子、中森美紀、ピアニストの山中優の3人で結成したユニットの、カンティアーモです。今回は、オペラとミュージカルから演奏させていただきます。楽しんでいただけます様に!!

P－4

11 志木混声合唱団　**指揮：室伏正隆**　**伴奏：山崎　愛**

1. ロンドンデリーの歌　アイルランド民謡
2. 童謡・唱歌メドレー「春」　編曲：室伏正隆

3年前に合唱団や吹奏楽団の育成に定評のある室伏先生を指導者に迎え、明るく楽しくをモットーに充実した練習に励んだ努力がやっと実を結びつつあります。サマーコンサートにはロンドンデリー等に取り組み始めました。

12 La Chambre verte Saxophone Ensemble　**代表：伊藤　緑**

1. 水上の音楽第2組曲より「Alla Hornpipe」　作曲：G.Fヘンデル　編曲：山下友教
2. ベルガマスク組曲より「プレリュード」　作曲：C.ドビュッシー　編曲：中村均一
3. My Favorite Things ~for Trouvère Quartet~　作曲：R.ロジャース　編曲：真島俊夫

毎年少しずつ編成が変わりますが、今年も全国各地で活躍中のプレーヤーがこの日のために集まってくれました。バロック音楽、ピアノ曲、ミュージカル音楽と時代も国も楽器も飛び越えた作品でお送りいたします。

13 志木フィルハーモニー管弦楽団　**指揮：山本宏一**

「アルルの女」第2組曲より　作曲：G.ビゼー
　牧歌
　ファランドール

志木フィルハーモニー管弦楽団は志木市と近郊の音楽好きが日曜に集まり、活動している市民オーケストラです。9月30日（日）にパルシティホールで定期演奏会を開催します。皆様の御来場をお待ちしております。

P－5

14 全体合唱　「夏の思い出」

「夏の思い出」
作詞・・江間章子
作曲・・中田喜直

一、夏がくれば　思い出す
はるかな尾瀬　遠い空
霧の中に　うかびくる
やさしいかげ　野のこみち
水芭蕉の花が　咲いている
夢みて美いている　水のほとり
しゃくなげ色に　たそがれる
はるかな尾瀬　遠い空

二、夏がくれば　思い出す
はるかな尾瀬　野の旅よ
花の中に　そよそよと
ゆれ　ゆれる　浮島よ
水芭蕉の花が　匂っている
夢みて匂っている　水のほとり
まなこつぶれば　懐かしい
はるかな尾瀬　遠い空

P－6

以上